第７回　スリランカを知るツアー（2019 年 3 月 3 日～10 日）

感想・意見～ツアーに初めて参加して～

記：石原　清子

スリランカへのツアーは東さんのお誘いで、初めて参加いたしました。当初は紅茶の国ということくらいしか知らず、その歴史も現在の政治や人々の生活についても、ほとんど知識を持ち合わせおりませんでした（留学生によりスリランカ講座は勉強になりました）。

海外旅行も数えるほどで、最後は 10 年前。初めてのアジア、しかも南の国で体力の心配もありました。ギリギリで行く決心をしたのは、美味しい紅茶が飲めるに違いないということ。そしてスリランカ（光り輝く島）という国名の響き。美しい島のイメージが次第にふくらんできました。10 年前に取得したパスポートがこの秋で切れるということも、せっかくのチャンスを無駄にしては惜しいという思いを後押ししました。

ワクワクとドキドキが半々での出発でしたが、いま、参加できて本当によかったと思っています。

〈スリランカ〉

スリランカの第一印象は水と緑の国。飛行機からみた島の地形もバスの車窓からの眺めも、湿地や湖沼が多く、周囲にはみどりがあふれ見知らぬ鳥が生息していました。日本も水と緑が豊かな島国ですが、大きな河川と高い山脈が縦横に連なる日本とは異なった南の国のエキゾチックな自然でした。

バスで巡った北部では、牛が田端に群れて、道路にまで出てきていたり、いたるところにいぬが寝そべっていたり、のどかな風景の中で時間がゆっくり流れている印象でした。一方道路には、二人乗り・三人乗りのオートバイがびゅんびゅん走り、成長して行く国のエネルギーもほとばしっているようでした。

〈小学校〉

北部の小学校二校は小規模で、子供たちは黒い髪に黒い瞳、まつ毛が長く皆可愛らしかった。そして素朴な印象を受けました。女の先生方がきれいなサリーをまとっていたのも印象的でした。

生徒たちが白い制服にネクタイをしている姿は以前テレビの番組で見ていましたが、地方のこんな小さな小学校も同様なのはちょっと驚きでした。英国領だった時代の伝統が今も守られているのでしょうか。清潔感のある白い制服で、きちんとした学校生活を送ってい

るように思われました。

ただ学校の設備で、トイレの扉が半分しか閉まらないとか、水も流せず、手洗い場もないという現状を見、洗練された制服とのギャップに衝撃を受けました。このような状況を多分、子どもたちも、あるいは大人も当たり前のことと受け止め、不自由であるとか困ったことと感じているわけではなく、このようなことをもって近代化された日本の方が豊かであり、彼らは気の毒と考えるのは、こちらの勝手な解釈かもしれません。ただ子ども達の健康や衛生面を考えると、水道やせめて井戸でもあったらな、と感じました。

大縄跳びは子供たちを夢中にさせる遊びとわかりましたが、もう少し時間を短縮して、カブトの折り方が案外難しいので時間配分のバランスを考慮してもよいのでは。また、カブトの折り方は予め、大きな紙にプロセスを描いておき、子ども達に見えるように壁に貼るなどの工夫があると、説明もわかりやすかったかもしれません。

歌は、日本の歌の紹介とともに、スリランカの童謡を子供たちにうたってもらうなどのメニューはどうでしょうか。また、可能なら 5 分でも 10 分でもよいから、授業風景やお昼のお弁当の様子なども見学してみたい。

学校で頂いたミルクティもうれしかったですが、みどりの木陰で一個丸ごと渡されたココナッツヤシの味は忘れられない楽しい記憶です。

ジャフナの図書館では、書棚を見学できなかったのが残念でした。日本の書籍がなくとも、どのような児童書があるのか知りたかった。

〈観光・宿・他〉

バスで巡った寺院はみなスケールが大きく、ヒンズー教寺院、仏教寺院の違いも興味深かった。

北部では海外の観光客が少なく、地元のスリランカ人の子供連れ、家族ぐるみの参拝者が多勢で、また人の中だけでなく道路のいたるところに様々な形式の仏像が作られており、信仰が暮らしと一体になっているように見受けられました。

アヌラーダブラの仏教人では夕闇せまる中、屋外で僧侶の読経をすぐそばできくことができ、得難い体験でした。

宿も食事も素晴らしく、通常の観光旅行では味わえない貴重な体験も多く私には鮮烈な印象の一週間の旅でした。

スリランカをもっと知り、スリランカの魅力を今一度味わいたいという気持ちですが初心者の私には少々スケジュールがタイトでしたので、願わくは宿の中でもう少し時間のゆとりがほしい。

夕方早めに宿に入って庭を散策する…部屋でくつろいで紅茶を楽しむ…など、せっかく贅沢なたたずまいの宿でしたから、その魅力を十二分に味わえる余裕がなかったことがもったいなく感じられました。

ガイドさんは優秀でしたし、ドライバー他のスタッフも親切でした。途中膝を痛めてしま

った際には、同行の皆さんに助けて頂き、ご親切をとてもありがたく思いました。

4月のスリランカ爆破テロ事件は衝撃でした。穏やかなスリランカの人々の心中を思うと胸が痛みます。二度とこのような悲劇が起きないよう、真の夕高さをめざし、スリランカらしい復興・発展がなされるよう願っています。